

西国巡礼慈悲の道

西国第五番

紫雲山

葛井寺

一千四三の慈眼

山主 森 快隆



当寺ご本尊は、現存する最古の千手観音として知られ、神亀二年（725）三月十八日行基菩薩導師により開眼法要が盛大に修せられ、聖武天皇もご光臨されています。本尊は宮殿内のお厨子に坐し、少々暗いのですが、光背のように広げられた大手は四〇本それぞれが持物をそなえ、その働きを示されています。小手は一〇〇一本あり、その手のひらにも細く慈眼が描か

れています。独立した全ての手が個々に組み込まれており、仏師の建立苦勞がよく偲ばれます。

本體中央の胸前には合掌の手があり、私達が手を合わすよりも先に、——ようこそのお参り——と待っていて下さっているようです。その手は幼子の手のようにふくよかな肉厚で、指先は触れ合わさっておらずやさしく丸くかこんだ隙間があり、これから咲こうとする

蓮の花の蕾のようです。蓮華合掌といい、大変やさしいしぐさで伴に開き花を咲かせましようかと祈ってくれています。この合掌の手が円をつくり幾層にもなるおびただしい数の脇手へと広がり本尊本體を温かく抱き込むかのように、そしてまた正円形は外へ大きく広がり私達礼拝者まで届き、やさしく包み込み慈しみのところが染み入るように伝わってまいります。

また、手に眼があるということ、それは「手」のひらに「目」を書き入れて【看】という字になります。

私達は身体が痛いと感じる時は、つい痛む箇所へ掌を当ててみます。【看】も【観】も同じくみることで

すが、直接手を当ててみる、奥深くまで詳しくみる、みまもる、みとるなど、また閉ざされた心のひだ、一人悩む心の内にも【看】の手で、そしてその人の身になり、ありがたい救いの手を差し伸べ【観】て頂きます。一〇四一本の手は大きく繁った大樹に見て父母を看じ、結跏趺坐した脚は広く張った大木の根に見て先祖を觀じ、また合掌の手には感謝を感じ、その観音の御手はいつも私達を見守って下さっています。



西国第五番

紫雲山 ^{ふじ い でら} 葛井寺(ふじいでら観音) 真言宗御室派

御本尊／十一面千手千眼観世音菩薩 開基／聖武天皇

まいるより たのみをかくる ふじいでら
はなのうてなに むらさきのくも



✳ 主な年中行事 ✳

- 1月1、2、3日 正月祈祷会
- 1月18日 初観音法会
- 1月初め 厄除け祈祷
- 2月3日 節分星祭り
- 4月8日 花まつり
- 4月18日 春季大法会
- 4月下旬 藤花まつり
- 4月29日 遣隋・唐使、殉難者慰霊祭
- 8月9日 千日まいり
- 8月16日 精霊送り火 (お盆送り火)
- 12月18日 修め観音 (長寿大根煮)

●毎月18日 本尊御開扉 2時 法要

●毎月第1土曜日 午前10時 写経会

観音風光

◆毎月18日は本尊国宝十一面千手千眼観世音菩薩の御開扉致します。午後2時より法要。護摩供を修行します。

◆毎年、4月29日(祝)『井真成』及び、葛井氏族には隋・唐へ多数の人々が派遣されています。それら殉職者への慰霊法要を行っています。

◆毎年、西国、四国霊場巡拝を聖地参拝を実施しております。皆様のご参加をお待ちしております。

ご詠歌の意味

よく一参るよりもお願いだけ—と受け取りがちですが、花山法皇ご巡錫の折—一心に参ることにより観音様に懸ける願いは叶えられ、証に藤の花の棚引く様をこの聖地にかかる紫の瑞雲に見て—お喜びと感動を詩にされました。一心にお願いする者を観音様は高貴な御姿で観て下さります。

〒583-0024 大阪府藤井寺市藤井寺1丁目16-21

TEL 072-938-0005 / FAX 072-952-1111 http://www.geocities.jp/saikoku33_5/

納経時間 午前8時～午後5時

西国三十三所札所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきますよう。